

2019年度

北海道スポーツ専門学校

スポーツ未来／スポーツトレーナー／スポーツ健康 学科
SMⅢ／AT・MTⅢ／SP・PE・SCⅡ 専攻

授業科目 (科目ID)	情報基礎 19t319 / 19s222		担当教員 (実務経験)	石井 克 有 ☒ 無 ☐ フリーライター		
対象年次・学期	3年／2年・通年		必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	実習		授業回数(1回90分)	30	時間数	60時間
授業目的	PC操作方法と「情報」の扱い方を学び、ビジネス場面において必要とされる知識と技法を修得する。					
到達目標	資料作成およびデータの整理・活用にむけて、Word、Excelの基本操作ができるようになる。					
テキスト・ 参考図書等	【テキスト】 実教出版企画開発部編(2016)『30時間でマスター Windows10対応 Word & Excel 2016』, 実教出版					
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準			
	試験	50%	評価は、試験点(50%)、提出物(30%)、その他(20%)の計100%とする。 ・試験点は、前期および後期に実施する実技試験の成績 ・提出物は、毎回の授業における課題の提出(計30回×1点) ・その他は、提出課題の理解度、授業に取り組む姿勢等を総合的に評価した担当所見とする。			
	レポート	0%				
	小テスト	0%				
	提出物	30%				
	その他	20%				
履修上の 留意事項	学生の理解度により進捗状況を柔軟に変更する場合があります。自らのスキルアップを目指して、授業を有効に活用してください。					
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題		履修内容		
	1	オリエンテーション		講義の進め方・試験等の説明		
	2	Windows10の基礎		Windowsの基本操作		
	3	Wordの基本操作①		文字入力・印刷・保存		
	4	Wordの基本操作②		基本操作とタイピング練習①(400字)		
	5	Wordの基本操作③		基本操作とタイピング練習②(600字)		
	6	Wordの基本操作④		基本操作とタイピング練習③(800字)		
	7	Wordの活用①		表・グラフの作成		
	8	Wordの活用②		ビジネス文章の作成①(編集機能Ⅰ)		
	9	Wordの活用③		ビジネス文章の作成②(編集機能Ⅱ)		
	10	Wordの活用④		ビジネス文章の作成③(ビジュアル)		
	11	Excelの基本操作①		データ入力の基礎		
	12	Excelの基本操作②		基本的なワークシートの編集		
	13	Excelの基本操作③		ワークシートの書式設定		
	14	Excelの基本操作④		グラフ・表の作成		
15	前期のまとめ		Word・Excelの前期範囲のまとめ			

	16	Excelの実践①	関数の適用①(オートSUMボタンの利用)
	17	Excelの実践②	関数の適用②(順位付け、四捨五入、判定)
	18	Excelの実践③	関数の適用③(条件による集計、表の検索)
	19	Excelの実践④	データベース機能
	20	Excelの実践⑤	データの集計
	21	Excelの活用①	実習問題①
	22	Excelの活用②	実習問題②
	23	Excelの活用③	実習問題③
	24	Word・Excelの応用①	PowerPointとの関連性
	25	Word・Excelの応用②	インターネットの活用と情報倫理
	26	Word・Excelの応用③	インターネットを利用した情報の活用
	27	Word・Excelの応用④	スクリーンショット・PDFファイルの作成
	28	Word・Excelの応用⑤	Word・Excelを使用したデータの整理と活用①
	29	Word・Excelの応用⑥	Word・Excelを使用したデータの整理と活用②
	30	後期のまとめ	Word・Excel後期範囲のまとめ

2019年度

北海道スポーツ専門学校

スポーツ未来／スポーツトレーナー 学科
SM／AT・MT 専攻

授業科目 (科目ID)	コミュニケーションⅢ 19t321		担当教員 (実務経験)	高田 涼介／今井 由美子 有 ☐ 無 ☒		
対象年次・学期	3年・集中		必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	講義		授業回数(1回90分)	15	時間数	30時間
授業目的	社会人として「どうあるべきか？」を理解し、すぐ実践できることを目的とする。					
到達目標	2年次からの積み上げとして、社会人としての在り方を確認し実践できることを目標とする。					
テキスト・ 参考図書等	必要に応じて、資料を配布する。					
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準			
	試験	%	レポート 20% 提出物 20% その他 60%(受講姿勢、受講態度等30%、担当所見30%)			
	レポート	20%				
	小テスト	%				
	提出物	20%				
	その他	60%				
履修上の 留意事項	プリント・視聴覚機器等を活用しながら進めていきます。人との信頼関係を築くためのツールとして『コミュニケーション』はとても大切です。社会人に向けての大切な要素を学ぶ期間として、真剣に自分と向き合ってみましょう。					
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容			
	1	就職活動に向けて①	履歴書の記入方法			
	2	就職活動に向けて②	自己分析 自分の強み、弱さ、今後どのように成長していくか、どのような職業人でありたいか			
	3	就職活動に向けて③	業界研究 進みたい分野においての調査			
	4	就職活動に向けて④	就職情報サイトの利用方法			
	5	面接試験に向けて①	心構え、様々な面接試験について			
	6	面接試験に向けて②	入退室、面接試験体験①			
	7	面接試験に向けて③	入退室、面接試験体験②			
	8	一般常識①	漢字(読み・書き)			
	9	一般常識②	丁寧語、敬語			
	10	一般常識③	挨拶、接遇			
	11	一般常識④	マナー、一般常識(応用)			
	12	一般常識⑤	ペア対話、グループ対話			
	13	まとめ①	確認テスト(読み・書き・丁寧語・敬語)			
	14	まとめ②	確認テスト(挨拶・接遇)			
15	まとめ③	確認テスト(マナー・一般常識応用)				

2019年度

北海道スポーツ専門学校

スポーツ未来／スポーツトレーナー 学

別紙1

[illegible]

2019年度

北海道スポーツ専門学校

スポーツ未来／スポーツトレーナ／スポーツ健康 学科
SMⅣ／AT・MTⅢ／SP・PE・SCⅡ 専攻

授業科目 (科目ID)	就職実務 19t413 / 19t320 / 19s221	担当教員 (実務経験)	濱田 光 有 ☐ 無 ☒ アスレティックトレーナー		
対象年次・学期	4年／3年／2年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	講義	授業回数(1回90分)	15	時間数	30時間
授業目的	1. 就職決定に向け自分自身を振り返り、客観的視野で自己分析を行う。 2. 就職活動の流れを理解し、円滑な活動へと繋げる。				
到達目標	社会人としての考え方や対応手法を学び、それらを説明・表現することができる。				
テキスト・ 参考図書等	就職サポートテキスト				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	%	レポートおよび提出課題、その他(受講姿勢、受講態度等)を総合的に評価する。		
	レポート	30%			
	小テスト	%			
	提出物	30%			
	その他	40%			
履修上の 留意事項	就職実務のテキスト及びプリント等を配布し授業を行う。、ここ数年の新卒就職戦線は売り手市場の傾向にありますが、その反面、雇用形態などの多様化も進み、仕事選びも難しくなっています。まずは自分自身を知り、社会傾向を知って悔いのない就職活動をする為に、客観的に自己評価を行うよう取り組んでください。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	ガイダンス	就活スケジュール・就活マナー・心構えなど、就活に向けた基本的な流れを学ぶ		
	2	就活対策(1)	エントリーシート(求職票)の書き方		
	3	就活対策(2)	履歴書の書き方①(練習用紙への記入)		
	4	就活対策(3)	履歴書の書き方②(本用紙への下書き)、線引き→下書き→チェック→本書き 完成品1枚回収		
	5	自己を知る	学生と社会人の違いを把握 自己分析・自己PRの作		
	6	就活対策(1)	求人票のチェック方法および志望動機の作成		
	7	就活対策(2)	PC室にてリクナビ、マイナビの説明、登録作業		
	8	就活対策(3)	企業へのアポイントの取り方、各提出書類の準備方法		
	9	選考試験対策(1)	選考試験の種類と対策		
	10	選考試験対策(2)	面接試験対策(基本動作・身だしなみ・事前準備)		
	11	選考試験対策(3)	面接試験対策(成功例と失敗例、質問内容)		
	12	選考試験対策(4)	面接試験対策(グループディスカッション、集団面接)		
	13	就職に向けて(1)	受験報告書の作成、提出		
	14	就職に向けて(2)	内定礼状の作成		
15	就職に向けて(3)	就職への心構え			

2019年度

北海道スポーツ専門学校

スポーツ未来／スポーツトレーナー 学科
SM／AT・MT 専攻

授業科目 (科目ID)	カレッジイベントⅢ 19t322	担当教員 (実務経験)	高田 涼介／今井 由美子 有 ☐ 無 ☒		
対象年次・学期	3年・集中	必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	講義	授業回数(1回90分)	15	時間数	30時間
授業目的	イベントを楽しく成功させる為の方法をディスカッションを通じ企画する事を目的とする。				
到達目標	誰もが楽しめるイベントを目指す。				
テキスト・ 参考図書等	必要に応じて資料を配布。				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	%	レポート 20% 提出物 20% その他 60%(受講姿勢、受講態度等30%、担当所見30%)		
	レポート	20%			
	小テスト	%			
	提出物	20%			
	その他	60%			
履修上の 留意事項	プリント・視聴覚機器等を活用しながら進めていきます。、人との信頼関係を築くためのツールとして『コミュニケーション』はとても大切です。社会人に向けての大切な要素を学ぶ期間として、真剣に自分と向き合ってみましょう。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	カレッジイベント内容①	イベントの内容説明		
	2	役割分担	執行部、委員、種目担当、種目参加者の決定		
	3	リハーサル	各種目のルール、及び実践確認		
	4	イベント実施	スポーツ大会		
	5	振り返り	レポート作成、提出		
	6	カレッジイベント内容②	イベントの内容説明		
	7	役割分担	執行部、委員、種目担当、種目参加者の決定		
	8	リハーサル	各種目のルール、及び実践確認		
	9	イベント実施	スポーツフェスティバル		
	10	振り返り	レポート作成、提出		
	11	カレッジイベント内容③	イベントの内容説明		
	12	役割分担	執行部、委員、イベント参加者、展示担当者の決定		
	13	リハーサル	執行部、委員、イベント参加者、展示担当者 当日準備		
	14	イベント実施	学園祭		
15	振り返り	レポート作成、提出			

2019年度

北海道スポーツ専門学校

スポーツ未来／スポーツトレーナー 学

別紙1

[illegible]

2019年度

北海道スポーツ専門学校

スポーツ未来／スポーツトレーナー 学科
SMIV／AT・MTⅢ 専攻

授業科目 (科目ID)	アスレティックリハビリテーション実習 19t428 / 19t324	担当教員 (実務経験)	濱田 光・土岐 政義・ 高田 涼介 有 ☐ 無 ☒		
対象年次・学期	4年/3年・集中	必修・選択区分	必修・選択(SMIV、MTⅢ)	単位数	1単位
授業形態	実習	授業回数(1回90分)	15	時間数	30時間
授業目的	アスレティックトレーナーとして、競技復帰・再発防止へ向けた、アスレティックリハビリテーションを立案・実践することを目的とする。				
到達目標	スポーツ外傷・障害に応じた、アスレティックリハビリテーションを計画・実践出来る。				
テキスト・ 参考図書等	公認ATテキスト⑦				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	%	その他(受講姿勢、受講態度等)を総合的に評価する。		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	%			
	その他	100%			
履修上の 留意事項	特になし。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	アスレティックリハビリテーション実習 1(濱田・土岐・高田)	スポーツ外傷・障害に対する、アスレティックリハビリテーションの計画		
	2	アスレティックリハビリテーション実習 2(濱田・土岐・高田)	スポーツ外傷・障害に対するアスレティックリハビリテーションの実践・評価		
	3	アスレティックリハビリテーション実習 3(濱田・土岐・高田)	スポーツ外傷・障害に対するアスレティックリハビリテーションの実践・評価		
	4	アスレティックリハビリテーション実習 4(濱田・土岐・高田)	スポーツ外傷・障害に対するアスレティックリハビリテーションの実践・評価		
	5	アスレティックリハビリテーション実習 5(濱田・土岐・高田)	スポーツ外傷・障害に対するアスレティックリハビリテーションの実践・評価		
	6	アスレティックリハビリテーション実習 6(濱田・土岐・高田)	スポーツ外傷・障害に対するアスレティックリハビリテーションの実践・評価		
	7	アスレティックリハビリテーション実習 7(濱田・土岐・高田)	スポーツ外傷・障害に対するアスレティックリハビリテーションの実践・評価		
	8	アスレティックリハビリテーション実習 8(濱田・土岐・高田)	スポーツ外傷・障害に対するアスレティックリハビリテーションの実践・評価		
	9	アスレティックリハビリテーション実習 9(濱田・土岐・高田)	スポーツ外傷・障害に対するアスレティックリハビリテーションの実践・評価		
	10	アスレティックリハビリテーション実習 10(濱田・土岐・高田)	スポーツ外傷・障害に対するアスレティックリハビリテーションの実践・評価		
	11	アスレティックリハビリテーション実習 11(濱田・土岐・高田)	スポーツ外傷・障害に対するアスレティックリハビリテーションの実践・評価		
	12	アスレティックリハビリテーション実習 12(濱田・土岐・高田)	スポーツ外傷・障害に対するアスレティックリハビリテーションの実践・評価		
	13	アスレティックリハビリテーション実習 13(濱田・土岐・高田)	スポーツ外傷・障害に対するアスレティックリハビリテーションの実践・評価		
	14	アスレティックリハビリテーション実習 14(濱田・土岐・高田)	スポーツ外傷・障害に対するアスレティックリハビリテーションの実践・評価		
	15	アスレティックリハビリテーション実習 15(濱田・土岐・高田)	スポーツ外傷・障害に対するアスレティックリハビリテーションの実践・評価		

2019年度

北海道スポーツ専門学校

スポーツ未来／スポーツトレーナー 学

別紙1

[illegible]

2019年度

北海道スポーツ専門学校

スポーツ未来／スポーツトレーナー 学科
SMIV／AT・MTⅢ 専攻

授業科目 (科目ID)	トレーナー総合実習 19t429 / 19t325	担当教員 (実務経験)	橋場 晋也・小林 大介・鎌倉 一・綿谷 美佐子 濱田 光・土岐 政義・高田 涼介 有 ☐ 無 ☒		
対象年次・学期	4年/3年・集中	必修・選択区分	必修・選択 (SMIV・MTⅢ)	単位数	2単位
授業形態	実習	授業回数 (1回90分)	30	時間数	60時間
授業目的	アスレティックトレーナー業務全般をトレーナー現場にて実践出来る。				
到達目標	アスレティックトレーナーとして現場で活動出来る。(アスリハ、コンディショニング、救急処置、栄養指導)				
テキスト・ 参考図書等	全公認ATテキスト				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準		
	試験	%	その他(受講姿勢、受講態度等)を総合的に評価する。		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	%			
	その他	100%			
履修上の 留意事項	特になし。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	トレーナー総合実習 1(橋場、小林、鎌倉、綿谷、濱田、土岐、高田)	スポーツ現場へトレーナー活動(アスリハ、コンディショニング、救急処置、栄養指導)		
	2	トレーナー総合実習 2(橋場、小林、鎌倉、綿谷、濱田、土岐、高田)	スポーツ現場へトレーナー活動(アスリハ、コンディショニング、救急処置、栄養指導)		
	3	トレーナー総合実習 3(橋場、小林、鎌倉、綿谷、濱田、土岐、高田)	スポーツ現場へトレーナー活動(アスリハ、コンディショニング、救急処置、栄養指導)		
	4	トレーナー総合実習 4(橋場、小林、鎌倉、綿谷、濱田、土岐、高田)	スポーツ現場へトレーナー活動(アスリハ、コンディショニング、救急処置、栄養指導)		
	5	トレーナー総合実習 5(橋場、小林、鎌倉、綿谷、濱田、土岐、高田)	スポーツ現場へトレーナー活動(アスリハ、コンディショニング、救急処置、栄養指導)		
	6	トレーナー総合実習 6(橋場、小林、鎌倉、綿谷、濱田、土岐、高田)	スポーツ現場へトレーナー活動(アスリハ、コンディショニング、救急処置、栄養指導)		
	7	トレーナー総合実習 7(橋場、小林、鎌倉、綿谷、濱田、土岐、高田)	スポーツ現場へトレーナー活動(アスリハ、コンディショニング、救急処置、栄養指導)		
	8	トレーナー総合実習 8(橋場、小林、鎌倉、綿谷、濱田、土岐、高田)	スポーツ現場へトレーナー活動(アスリハ、コンディショニング、救急処置、栄養指導)		
	9	トレーナー総合実習 9(橋場、小林、鎌倉、綿谷、濱田、土岐、高田)	スポーツ現場へトレーナー活動(アスリハ、コンディショニング、救急処置、栄養指導)		
	10	トレーナー総合実習 10(橋場、小林、鎌倉、綿谷、濱田、土岐、高田)	スポーツ現場へトレーナー活動(アスリハ、コンディショニング、救急処置、栄養指導)		
	11	トレーナー総合実習 11(橋場、小林、鎌倉、綿谷、濱田、土岐、高田)	スポーツ現場へトレーナー活動(アスリハ、コンディショニング、救急処置、栄養指導)		
	12	トレーナー総合実習 12(橋場、小林、鎌倉、綿谷、濱田、土岐、高田)	スポーツ現場へトレーナー活動(アスリハ、コンディショニング、救急処置、栄養指導)		
	13	トレーナー総合実習 13(橋場、小林、鎌倉、綿谷、濱田、土岐、高田)	スポーツ現場へトレーナー活動(アスリハ、コンディショニング、救急処置、栄養指導)		
	14	トレーナー総合実習 14(橋場、小林、鎌倉、綿谷、濱田、土岐、高田)	スポーツ現場へトレーナー活動(アスリハ、コンディショニング、救急処置、栄養指導)		
	15	トレーナー総合実習 15(橋場、小林、鎌倉、綿谷、濱田、土岐、高田)	スポーツ現場へトレーナー活動(アスリハ、コンディショニング、救急処置、栄養指導)		

[illegible]

授業科目 (科目ID)	トレーナー総合実習 19t429 / 19t325	担当教員 (実務経験)	橋場 晋也 有 ☒ 無 ☐ アスレティックトレーナー、鍼灸師
対象年次・学期	4年/3年・集中	担当教員 (実務経験)	小林 大介 有 ☒ 無 ☐ アスレティックトレーナー、鍼灸師
授業形態	実習	担当教員 (実務経験)	鎌倉 一 有 ☒ 無 ☐ アスレティックトレーナー
		担当教員 (実務経験)	綿谷 美佐子 有 ☒ 無 ☐ アスレティックトレーナー、理学療法士
		担当教員 (実務経験)	濱田 光 有 ☐ 無 ☒
		担当教員 (実務経験)	土岐 政義 有 ☒ 無 ☐ アスレティックトレーナー
		担当教員 (実務経験)	高田 涼介 有 ☒ 無 ☐ アスレティックトレーナー、鍼灸師
		担当教員 (実務経験)	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 (実務経験)	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 (実務経験)	有 ☐ 無 ☐

2019年度

北海道スポーツ専門学校

スポーツ未来／スポーツトレーナー 学科
SM／AT・MT 専攻

授業科目 (科目ID)	三年度研究課題 I 19t327	担当教員 (実務経験)	濱田 光・齋藤 敬男・北村 和弘 他 有 ☐ 無 ☒		
対象年次・学期	3年・集中	必修・選択区分	選択	単位数	4単位
授業形態	講義	授業回数(1回180分)	15	時間数	60時間
授業目的	与えられた課題や問題を学問的に深く考え、調べ、明らかにする。				
到達目標	調べ、明らかにした内容をレポート等としてまとめあげる。				
テキスト・ 参考図書等	必要に応じて資料等配布する				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	%	レポートや提出物等の状況を総合的に評価する。		
	レポート	60%			
	小テスト	%			
	提出物	20%			
	その他	20%			
履修上の 留意事項					
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	下肢のスポーツ外傷・障害 1	ACL損傷		
	2	下肢のスポーツ外傷・障害 2	PCL損傷		
	3	下肢のスポーツ外傷・障害 3	MCL損傷、LCL損傷		
	4	下肢のスポーツ外傷・障害 4	大腿部打撲、膝蓋靱帯炎		
	5	下肢のスポーツ外傷・障害 5	アキレス腱断裂		
	6	下肢のスポーツ外傷・障害 6	足関節内反捻挫、扁平足障害		
	7	上肢のスポーツ外傷・障害 1	肩関節脱臼(コンタクト)		
	8	上肢のスポーツ外傷・障害 2	肩鎖関節脱臼		
	9	上肢のスポーツ外傷・障害 3	肩インピンジメント症候群		
	10	上肢のスポーツ外傷・障害 4	肘MCL損傷		
	11	上肢のスポーツ外傷・障害 5	突き指、TFCC損傷		
	12	体幹のスポーツ外傷・障害 1	腰椎椎間板ヘルニア		
	13	体幹のスポーツ外傷・障害 2	腰椎分離症		
	14	体幹のスポーツ外傷・障害 3	筋膜炎腰痛		
15	体幹のスポーツ外傷・障害 4	頸椎捻挫、頸椎椎間板ヘルニア			

2019年度

北海道スポーツ専門学校

スポーツ未来／スポーツトレーナー 学科

別紙1

[illegible]

2019年度

北海道スポーツ専門学校

スポーツ未来／スポーツトレーナー 学科
SM／AT・MT 専攻

授業科目 (科目ID)	三年次研究課題Ⅱ 19t328	担当教員 (実務経験)	濱田 光・齋藤 敬男・北村 和弘 他 有 ☐ 無 ☒		
対象年次・学期	3年・集中	必修・選択区分	選択	単位数	4単位
授業形態	講義	授業回数(1回180分)	15	時間数	60時間
授業目的	与えられた課題や問題を学問的に深く考え、調べ、明らかにする。				
到達目標	調べ、明らかにした内容をレポート等としてまとめあげる。				
テキスト・参考図書等	必要に応じて資料等配布する				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	%	レポートや提出物等の状況を総合的に評価する。		
	レポート	60%			
	小テスト	%			
	提出物	20%			
	その他	20%			
履修上の留意事項					
履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	解剖学的用語の確認	体表の区分・運動の表し方		
	2	骨・関節の構造と機能	骨の構造・関節の構造・靱帯の構造		
	3	筋・腱の構造と機能	筋に関する生理学		
	4	骨格筋の神経支配と反射	筋に関する生理学		
	5	脳(運動発現プログラム)①	運動プログラム①		
	6	脳(運動発現プログラム)②	運動プログラム②		
	7	消化器と栄養吸収	咀嚼・胃・小腸・肝臓		
	8	消化器と栄養吸収	咀嚼・胃・小腸・肝臓		
	9	呼吸器と呼吸運動	鼻腔～肺の構造と働き		
	10	循環器系と血液	心臓の構造と働き、血液		
	11	上肢帯の運動:肩・肘・手	肩関節に関する運動、肘関節に関する運動、手関節に関する運動		
	12	下肢帯の運動:足・膝	足関節の運動、膝関節の運動		
	13	体幹＋下肢帯の運動:股関節	腰椎と股関節の運動		
	14	体幹の基礎解剖と運動:頸椎	体幹の基礎解剖と運動、頸椎の運動		
	15	体幹の基礎解剖と運動:胸椎	胸椎と胸郭の運動		

[illegible]

2019年度

北海道スポーツ専門学校

スポーツ未来／スポーツトレーナー 学科
SM／AT・MT 専攻

授業科目 (科目ID)	三年度研究課題Ⅲ 19t329	担当教員 (実務経験)	濱田 光・齋藤 敬男・北村 和弘 他 有 ☐ 無 ☒		
対象年次・学期	3年・集中	必修・選択区分	選択	単位数	4単位
授業形態	講義	授業回数(1回180分)	15	時間数	60時間
授業目的	与えられた課題や問題を学問的に深く考え、調べ、明らかにする。				
到達目標	調べ、明らかにした内容をレポート等としてまとめあげる。				
テキスト・ 参考図書等	必要に応じて資料等配布する				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	%	レポートや提出物等の状況を総合的に評価する。		
	レポート	60%			
	小テスト	%			
	提出物	20%			
	その他	20%			
履修上の 留意事項					
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	チームワーク①集団とチーム	チームワークと集団の違い、チーム形成のプロセス		
	2	チームワーク②チームミーティング	チームミーティング 役割を分担の理解と相互依存関係について		
	3	チームワーク③チームビルディング	チームビルディングの概要と効果的なアプローチ		
	4	心理的サポートの必要性	心理サポートを求める選手の特徴と傾向		
	5	指導者による心理的サポート①非言語表現	非言語的・準言語コミュニケーションの理解と実際		
	6	指導者による心理的サポート②言語表現	言語的コミュニケーションの理解と実際		
	7	指導者による心理的サポート③演習	コミュニケーションを用いた演習・傾聴スキルとは		
	8	スポーツカウンセリング①基本姿勢	カウンセリングの基本姿勢、アセスメント・ラポールについて		
	9	スポーツカウンセリング②質問他	質問のねらいと種類、感情の転移・逆転移の理解		
	10	心のコンディショニング①覚醒水準の違い	最適な覚醒水準の違い・ピークパフォーマンスについて		
	11	心のコンディショニング②セルフモニタリング	セルフモニタリングの種類・最適な自分の情動状態を知る		
	12	発達発達の心理①	ジュニア期特徴と対応、学習理論について		
	13	発達発達の心理②	思春期の対応と青年期以降の対応		
	14	メンタルマネジメント、ストレスと認知変容	ストレスの概要、ABC理論について		
15	メンタルトレーニングの活用の実際	メンタルトレーニング活用方法とサポートの実際			

2019年度

北海道スポーツ専門学校

スポーツ未来／スポーツトレーナー 学

別紙1

[illegible]

2019年度

北海道スポーツ専門学校

スポーツ未来／スポーツトレーナー／スポーツ健康 学科
SMⅣ／AT・MTⅢ／SP・PE・SCⅡ 専攻

授業科目 (科目ID)	ボランティア活動 19t419 / 19t330 / 19s230	担当教員 (実務経験)	ボランティア先の担当者およびクラス担任 有 ☐ 無 ☒		
対象年次・学期	各学科就職学年(4年、3年、2年)・集中	必修・選択区分	選択	単位数	1単位
授業形態	実習	授業回数(1回90分)	15	時間数	30時間
授業目的	ボランティア活動を通じて、直接的に実践力を身につける。				
到達目標	ボランティア活動先における実務遂行を通じてボランティア精神や各種能力・技術力の向上を図る。				
テキスト・ 参考図書等					
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	%	ボランティア活動先の担当者に、実務遂行状況について、相対的な判断にて評価してもらう。(ボランティア活動先の担当者と当該クラス担任間において情報交換し評価する場合もある。) 「ボランティア活動報告書」の提出をもって、活動状況を把握する。		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	%			
	その他	100%			
履修上の 留意事項	学外での活動であり、ボランティア活動先において学習するため、各自の目標設定やスケジュール管理が大変重要となります。活動期間が有意義なものとなるように、コミュニケーションをしっかりと取りながら、目標達成を目指してください。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	ボランティア活動先における実務遂行	ボランティア活動内容について、実務を通じて学習する		
	2	ボランティア活動先における実務遂行	ボランティア活動内容について、実務を通じて学習する		
	3	ボランティア活動先における実務遂行	ボランティア活動内容について、実務を通じて学習する		
	4	ボランティア活動先における実務遂行	ボランティア活動内容について、実務を通じて学習する		
	5	ボランティア活動先における実務遂行	ボランティア活動内容について、実務を通じて学習する		
	6	ボランティア活動先における実務遂行	ボランティア活動内容について、実務を通じて学習する		
	7	ボランティア活動先における実務遂行	ボランティア活動内容について、実務を通じて学習する		
	8	ボランティア活動先における実務遂行	ボランティア活動内容について、実務を通じて学習する		
	9	ボランティア活動先における実務遂行	ボランティア活動内容について、実務を通じて学習する		
	10	ボランティア活動先における実務遂行	ボランティア活動内容について、実務を通じて学習する		
	11	ボランティア活動先における実務遂行	ボランティア活動内容について、実務を通じて学習する		
	12	ボランティア活動先における実務遂行	ボランティア活動内容について、実務を通じて学習する		
	13	ボランティア活動先における実務遂行	ボランティア活動内容について、実務を通じて学習する		
	14	ボランティア活動先における実務遂行	ボランティア活動内容について、実務を通じて学習する		
	15	ボランティア活動先における実務遂行	ボランティア活動内容について、実務を通じて学習する		